

児童の主体性を生かし、他者と協同して課題を解決する総合的な学習の時間の充実
 － 4 学年「福祉体験」「ふれあい訪問」の実践を通して－

日立市立田尻小学校

1 はじめに

本校の「総合的な学習の時間」では、体験活動を重視して、学習の過程に数多く取り入れている。また、体験活動には、地域素材や人材の活用・交流を多く取り入れ、実生活に結びつけようとしている。

学年のテーマは、身近な地域調べから日本・世界、未来へと発展していくよう計画されている。



アイマスク体験

【各学年の学習テーマ】

3 学年	テーマ：「発見！わたしたちのまち」 昔話を聞き、田尻学区の歴史や特色を調べる。
4 学年	テーマ：「田尻の思いやりをさがそう」 いろいろな人との交流を通して、身近な思いやりについて考えていく。
5 学年	テーマ：「たじり環境探検隊」 地域の様々な環境に目を向け、取材・調査し、今後の環境について考えていく。
6 学年	テーマ：「見つめよう！世界の中の日本」「中学校へとびたとう」 日本文化のよさに目を向けて調べ、国際人として活躍する資質を育てる。 また、自分の将来に向かってよりよく生活していくための計画を立てていく。

各学年の様々な学習活動では、G Tにたくさんの支援をいただいている。以下、4 学年の実践を中心に述べていく。

2 「総合的な学習の時間（どしっ子タイム）」学習計画

(1)福祉の学習……テーマ「田尻の思いやりをさがそう」：様々な人との交流を通して、身近な思いやりについて考えていく。

(2)国際理解の学習…「英語活動」：英語を使って会話をしたり、歌を歌ったりして英語に慣れ親しむ。ALT 訪問学習も含む。

(3)情報の学習…… パソコンを使って調べてまとめたり、発表したりする。



車いす体験

【福祉の学習計画（一部）】

	学習計画	主な学習内容
つかむ・	テーマ：「身近な思いやりをさがそう」	
	○オリエンテーション	・ どしっ子タイムの学習について知る。
	○思いやりを見つけよう	・ 田尻小学校の中での思いやりとは ・ 地域の中での思いやりとは
	○どんな思いやりがあったかな	・ 自分が学校生活や家庭、地域の中で見つけた思いやりを発表し合い、お互いが気づく。

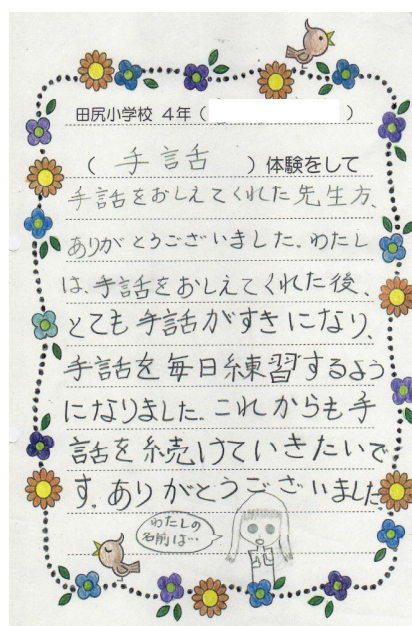
調 べ る	○思いやりの必要な人ってどんな人？	・どのような人たちが、どんな思いやりを必要としているのか考える。 ・福祉を中心に学習することを確認する。
	○身近な福祉について調べる	・福祉に関係する道具や用具の中から調べる。 (ユニバーサルデザイン、点字ブロックなど)
ふ れ る ・ 体 験 す る	テーマ:「障害をもつ人の気持ちを理解しよう」	
	○福祉体験の準備をしよう ・アイマスク体験 ・手話体験 ・高齢者疑似体験 ・車いす体験	・自分たちの学習テーマを決めるための一つのきっかけとして、体験学習をする。 ・4つの体験の中から1つを選び、GTを招いて学習する。 ・クラスを4つのグループに分ける。1グループ8人までとする。
	○ふれあいのためのエチケットを学ぼう	・高齢者や体の不自由な人たちと接するときのマナーについて学習する。
	○体験学習をしよう	・それぞれのコースに分かれ、体験する。後日その体験を他のグループに紹介する。 ・点字板を使い、点字体験をする。
	○お礼の手紙を書こう	・GTにお礼の手紙を書く。
	○体験したことをみんなに伝えるための準備・計画をしよう	・だれが、何をやるか、気をつけるポイントを話し合い、友達に教えることができるようにする。
	○自分たちの体験したことを他のみんなに伝えよう	・聞いている人に分かりやすく、丁寧に説明することを心がける。
	テーマ:「福祉にふれよう」	
	○ふれあい訪問のために準備	・ふれあい訪問に向けて、自分たちにできることを

3 実践事例

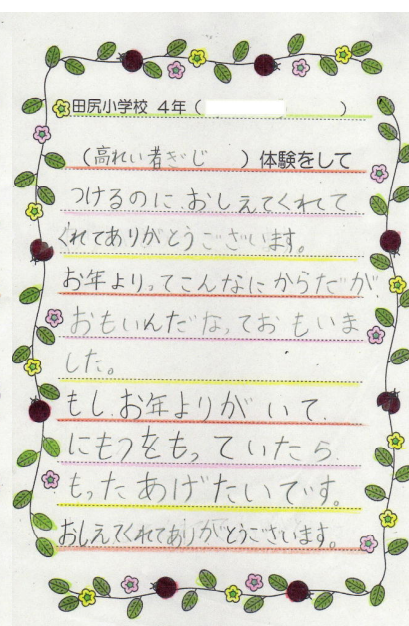
(1) 福祉体験 (6月)

アイマスク体験、高齢者疑似体験、手話体験、車いす体験の4つのコースに分かれ、福祉体験を行った。

学習の目的を理解していただき、田尻交流センターにGTやボランティアの選定・調整をしていただいた。体験当日は、各コースともGTの



お礼の手紙 (手話)



お礼の手紙 (高齢者)

指導により、楽しく活動に取り組むことができた。ボランティアの方にも多数参加していただき、高齢者疑似体験セットの装着の手助けなど、大変助かった。

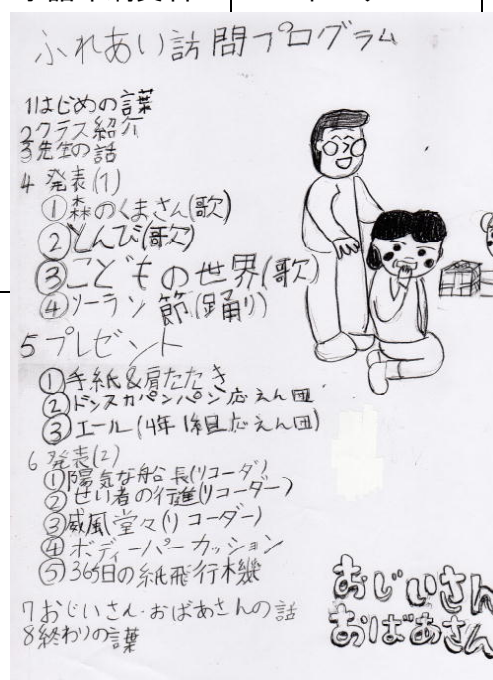
アイマスク、点字板、高齢者疑似体験セット、車いすについては、日立市福祉協議会に貸していただいた。点字板を使つての点字学習は、別な日に学級ごとに実施し、目の不自由な方への理解を深めることができた。



高齢者疑似体験

【福祉体験・計画表】

体 験	アイマスク体験	高齢者疑似体験	手話体験	車いす体験
場 所	4-1 教室	図工室	4-2 教室	体育館
児童数	23名	23名	23名	23名
担 当	先生	先生	先生	先生
G T ボランティア	() 他 5名	() 他 13名	() 他 6名	() 他 6名
準 備 ・ 資 料	アイマスク35 コップ30 ペットボトル15 紙パック30 ラップ箱30 白杖15 点字板35	高齢者疑似体験セ ット15 ・子ども用10 ・大人用5	手話印刷資料	車いす4



ふれあい訪問・プログラム

(2)ふれあい訪問（11月）

福祉体験や登下校の見守り活動等へのお礼を兼ねて、児童が地域のお年寄りと直接ふれあうことのできる機会、お年寄りに楽しんでもらう機会として、ふれあい訪問を行った。計画に当たっては、学校側の訪問希望日をもとに、田尻交流センターに日程を調整していただき、訪問サロン・実施場所を決めることができた。

内容は、「お年寄りに楽しんでもらおう」をテーマに、学級ごとに何度も話し合った結果、クラス紹介、プレゼント（手紙、折り紙、肩たたき）、歌、リコーダー、ソーラン節（踊り）、エール、ボディーパーカッション等、多岐にわたった。

1対1で手紙等のプレゼントを渡した後、肩たたきをしながらの「お話タイム」を設定した。



肩たたき & お話タイム

始めは遠慮がちだったが、どの児童も徐々に慣れ、楽しく歓談することができた。お年寄りも皆笑顔にあふれ、うれしそうであった。中には、ハンカチを取り出し涙ぐんでいらっしゃる方もいた。

学校で習ったボディーパーカッションを、お年寄りに児童が教えて一緒にやってもらうという活動も、1対1で丁寧に繰り返し動作を見せながら行うことができた。お年寄りには、よい運動になったと、喜んでいただいた。

最後は、感激したお年寄りがお礼としてアチをつくってください、そこをくぐってのお別れ・退場となった。自分たちで計画し、相手のことを考えながらアイデアを出し合い、熱心に練習に取り組んだことが成功につながり、児童たちは、とても満足することができた。一人一役ということで役割分担をし、児童一人一人に責任をもたせたことで、さらに意欲をもって取り組むことにつながった。

【ふれあい訪問・計画表】

クラス	4年3組	4年1組	4年2組
月日	11月14日(月)	11月18日(金)	11月22日(火)
時間	10:00-11:00	10:00-11:00	10:00-11:00
場所	はまぎく荘	田尻交流センター	上相田集会所
サロン	さんあいクラブ	田尻ふるさとサロン	上相田ほっとサロン
ボランティア	() 他6名	() 他6名	() 他6名
引率	担任、()	担任、()	担任、()



ソーラン節



一緒にボディーパーカッション

4 成果と課題

福祉体験は、「アイマスク体験」などの4つのコースに分かれて行った。体験活動を通して、障害をもつ方や高齢者の不自由さや動きの困難さを実感することができた。1学期に行った福祉体験に続き、2学期には、地域の交流センターの支援をいただき、高齢者との交流の機会を設けることができた。高齢者とのふれあいを通して、福祉に対する考えが深まり、思いやりの気持ちをもつことができた。これらの体験が、他者と協同して課題を解決する学習活動につながった。



お年寄りにエール

より探究的な学びを実現するためには、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」への学習過程を、今まで以上に重視し学習を進めていく必要がある。また、事前の準備に時間がかかってしまったことが課題であり、工夫が必要である。